

[調査会 NEWS 403(18.9.4)]

お詫びとご報告

訪韓等で調査会ニュースがしばらく発行されておらず、ご迷惑をおかけしました。詳しいことは明日5日火曜の記者会見の報告としてお知らせしますが、とりあえずご報告すべきことのみお伝えします。

(1) 古川さん認定訴訟について

古川了子さんの拉致認定を求める行政訴訟は去る9月1日の法廷で、裁判長より古川さんを北朝鮮で目撃した安明進氏と古川さんの姉で原告である竹下珠路さんを証人として11月1日に次回法廷を行うとの決定が下されました。

(2) 5日記者会見について

記者会見の内容は概ね次の通りです。

- ・ゼロ番台リスト1名発表(関連地域 福島・富山)
- ・マッピングリスト(仮称・調査活動の中間報告的リスト)発表と関係各方面への要請
- ・訪韓関連の報告(しおかぜ収録・新プロジェクト・他)
- ・人権週間に関する7団体要請への政府回答について
- ・その他

今回は発表事項が多いため、会見後のお問い合わせではお答えしきれないことがあるかも知れません。報道関係各位にはご多忙中恐縮ですが、できるだけご対応下さいますようお願い申し上げます。

[調査会 NEWS 404(18.9.4)]

古川さん認定訴訟について

主任弁護士・川人博(法律家の会幹事・調査会常務理事)

多くの支援者の方々の要請の活動の成果として、裁判所が安明進さんと竹下珠路さんの承人尋問を決定しました。次回 11 月 1 日午後 3 時から 2 人の証人尋問が実施されます。安明進さんが日本の裁判所で証言するのは初めての機会となります。また、拉致被害者の家族が証言するのも、初めての機会となります。大変歴史的な法廷となりますのでぜひ多くの方々が傍聴し、励ましていただければ幸いです。なお、傍聴券の発行があるかも知れませんが、法廷が近づいたら調査会のニュース等をごらん下さい。

[調査会 NEWS 405(18.9.5)]

以下、本日の記者会見での発表のうち、28 次ゼロ番台リストとマッピングリストについてお知らせします。

第 28 次 0 番台リスト

城島 正義 (しろとり まさよし)

失踪年月日 昭和 55 (1980) 年 1 月 26 日

生年月日 大正 15 (1926) 年 10 月 26 日

性別 男

当時の年齢 53 歳

当時の身分 大型貨物船 1 級機関士

失踪場所 富山県伏木町

当時の住所 福島県いわき市

身体的特徴 身長 172cm 体重 60kg 盲腸の手術痕あり

失踪の状況 富山県伏木町の港に船が停泊中、船員と飲みに出かけたが、その後「先に船に戻る」と言い、停泊している漁港のターミナルまで店主に車で送られたが、その後行方不明。船に入る姿は見られていない。失踪前の正月に家(いわき市)に帰り 1 週間ほど過ごしている。失踪前は毎日家族に連絡があった。船はその後富山港を経て韓国へ行く予定だった。

マッピングリスト

平成 18 年 9 月 5 日

関係各位

マッピングリストの発表と情報提供のお願いについて

特定失踪者問題調査会

平素拉致問題解決のためのご協力に感謝申し上げます。

さて、調査会では平成 15 年 1 月の発足以来、失踪者の調査を行い、ゼロ番台リスト、1000 番台リストの発表等情報を公開して参りました。

昨今、北朝鮮の体制の動揺等もあり、情報の量は増加していますが、年内解決を実現するために、可能な手段はすべて打つことが必要と考えています。そしてそれが私たちだけの力でなしえるものでないことは言うまでもありません。政府機関の責任はもちろんですが、民間でも報道関係の皆様をはじめ、各層のご協力が必要不可欠です。

以上の観点から私たちはこれまでの調査内容を整理し、可能なものは「マッピング・リスト」として今後の記者会見で逐次発表し、少しでも多くの方に理解を深めていただくように努力して参りたいと思います。この発表が契機になり、さらに情報収集や対応が進む

ことを心から期待しております。各位のご協力を心よりお願い申し上げます。

・マッピングリスト作成の目的

これまで調査の過程で公開可能なものはゼロ番台、そのうち拉致の可能性が高いと思われるものは 1000 番台として発表してきた。しかし、私たち自身が古川さんの訴訟を通して「政府認定者とそうでない人の差をつけるべきでない」と主張している一方で、1000 番台リストにある人とそうでない人の間に、差がついているかのように見える状況になっていることも事実である。そのため、逆に 1000 番台リストの追加には慎重にならざるを得ず、ある意味自縄自縛とすら言える。

しかし、調査自体は少しずつ進展している。調査会としては、少しでも情報を提供し、これを機会として政府・議会関係者はもちろん、報道関係者、一般国民に至るまで協力をお願いし、また、拉致問題の全体像を知っていただく一助となることを期待するものである。

・マッピングリストの具体的内容

例えば今回の「目撃証言のある失踪者」「朝鮮半島での失踪者」のようにカテゴリー別に発表を行う。今後「看護師の失踪」のような職業別の失踪、「埼玉県川口市周辺での失踪」のような地域別の失踪、「アベック・夫婦での失踪」「1980 年代中盤の若い女性の失踪」のような状況別の失踪、また、「政府認定者でもなく、調査会のリストにも載っていないが目撃証言や様々な情報のあるケース」などを整理し、順次発表していく。毎月の定例記者会見のときだけでは間に合わないので、出来るだけ早くまとめ、可能なものから順次臨時の記者会見を開催して発表する。

マッピングリスト（平成 18 年 9 月 5 日発表・文中敬称略）

マッピングリスト 1（目撃証言）

安明進 加藤久美子・古川了子・藤田進（上田英司・松本賢一・山田建治に似た人物も目撃しているが、目撃時の記憶と失踪者本人の年齢や身長等のデータに違いがあり、同一人物であるとの自信はないとのこと。なお、安明進は政府認定者のうち横田めぐみ・田中実・蓮池薫・市川修一・増元み子と、政府認定者ではないが、拉致されて北朝鮮に住む寺越武志を目撃している。）

呉吉男 生島孝子（呉吉男は政府認定者のうち石岡亨を目撃している）

権革 徳永陽一郎・斉藤裕・大屋敷正行・松本賢一・生島孝子・国広富子・山本美保・佐々木悦子

（権革はこの他に伝聞情報で園田敏子の可能性のある女性の情報を明らかにしている。）

金国石 松本京子・斉藤裕

金聖愛 国広富子・古都瑞子

A 日高信夫

B 坂本とし子

C 園田一・園田敏子

D 安達俊之

E 加瀬テル子・布施範行

その他 男性3人、女性1人

(ゼロ番台リストですでに名前は公開されているが、事情により誰なのかについては公表できない)についての目撃情報と、木村かほるの可能性のある伝聞情報が存在する。

マッピングリスト2 (朝鮮半島での失踪者)

大政由美・中村三奈子

[調査会 NEWS 406(18.9.6)]

古川さん認定訴訟についての川人論文

「世界週報」9月12日号に古川了子さん拉致認定訴訟の主任弁護士である川人博・法律家の会幹事（調査会常務理事）が「重要局面に入った拉致被害者認定訴訟」と題して書いておられます。安明進氏・竹下珠路さんが証人となることが決まる前に書かれた原稿ですが、ご一読戴ければ幸いです。

バルーンプロジェクト

これは北朝鮮難民救援基金の加藤博事務局長からの提案で始まったのですが、韓国で脱北者NGO・キリスト教関係者の皆さんが北朝鮮に気球を使ってビラを送る活動を行っています。私たちも同様の活動を行うべく、検討をしてきましたが、先週の訪韓の際、8月30日に代表荒木と理事村尾がこの活動に参加し、北朝鮮に近い江華島で気球を飛ばす作業を体験しました。通常は約1万2000枚のビラの入ったビニール袋を3個気球に付け、それぞれに簡単な時限装置をセットして（遠距離・中距離・近距離）飛行中にひとつずつ時間をずらして飛散させるものです。当日は風があまり良くなかったので、1つの風船に1個だけ装着して3回飛ばしました。

これまで韓国政府には北朝鮮側から9回に渡り「止めさせる」との抗議が来ているようですが、いうまでもなく、これはそれだけ効果があることの証拠です。ちなみに、30日に飛ばした気球のうちの一つは時限装置が早く作動してしまい、韓国領の上空でビラが飛散しましたが、そのビラは翌日約50キロ離れた韓国大統領府に落ちたそうです。気球は風が良ければ数時間で平壤の北まで届くとのことでした。ビラはビニールでできており、濡れても問題ない上、袋状になっているので、滞空時間が長い（つまり、広範囲に飛散する）という利点もあります。

難民救援基金と調査会では現在すでにビラの文案作成に入っていますが、今後他の北朝鮮人権運動関係NGOにも呼びかけ、韓国側と調整してできるだけ早くに北朝鮮へと飛ばしたいと考えています。

韓国でしおかせ収録

先週、韓国で次の皆さんの収録を行いました。

金ソンミン・自由北韓放送代表、崔祐英・拉北者家族協議会会長、柳ヒヨンス・北韓人権青年学生連帯事務局長、金承哲・北韓研究所研究員、ノルベルト・フォラツェン医師

このうち、フォラツェン氏の放送は4日の第2放送（英語）で、金ソンミン、崔祐英、柳ヒヨンス各氏の放送は5日の第2放送（韓国語）で流れています。金承哲氏の放送は来週以降になります。これらの方々の声は1回で終わらせず、適時再放送も行っていく予定です。

なお、今回拉致・脱北・人権連帯の都希命代表も収録したのですが、こちらのミスで録

音に失敗し、次回にあらためて行うこととなりました。朝鮮戦争当時の拉致被害者の会である6・25戦争拉北人士家族協議会の李美一会長には時間の都合でお会いできませんでしたが、電話でお話しした際、次の機会に収録させていただくことにしました。また、今回はもう一つの家族会である拉北者家族会の崔成龍代表にもお会いしましたが、その折機会を見て収録させていただきたいとお願いしています。

「しおかぜ」では、今後も国内外の関係者の皆さんの声を収録し、北朝鮮に流していく予定です。

[調査会 NEWS 407(18.9.9)]

ノルベルト・フォラツェン氏の「しおかぜ」

メッセージ献身的に北朝鮮の人権運動を行っているドイツ人医師、ノルベルト・フォラツェン氏のメッセージを収録したことについては前号ニュースでお知らせしました。すでに9月4日の英語放送で流しましたが、今後も適時流していく予定です。ご参考までメッセージの概要をお知らせします。去る7日には家族会の増元照明事務局長、北朝鮮難民救援基金の加藤博事務局長、北朝鮮帰国者の声明と人権を守る会の三浦小太郎事務局長・宋允復事務局次長のメッセージも収録しました。これらも順次放送していきますが、「しおかぜ」では今後さらに国内外の関係者に登場いただく予定です。

(フォラツェン氏メッセージの概要)

こんにちは。私はドイツ人の緊急救命医師のノルベルト・フォラツェンです。

多分皆さんの中には、私が1999年から2000年にかけて北朝鮮に滞在し、ドイツ人医師として北朝鮮内の幾つかの病院で皆さんの介護をに携わった事を覚えている方もおられるでしょう。

私は皆さんと友達になると決め、出来る限りの事をしてきました。そして皆さんは私からのメッセージを受け止めてくれたと思うのです、何故なら私は皆さんから友好メダルを頂いたからです。それは私が医療に関する助言をしたり医薬品を分けたり、医療面での支援をただけではなく、特別な友情の印として私の皮膚の一部をさしあげたからです。

私は勇敢で、慎み深く親切な北朝鮮の人達が大好きです。一般市民の慎み深さや郊外の病院を訪問した際受けた歓迎などを思うにつけても、彼等を友人と思っています。

しかし、私はあなたの国の政府の友人ではありません。金正日は好きではありません。何故なら金正日は国家の指導者ではなく、マフィアのボスの様なもので、北朝鮮の一般市民を人質として監禁し、皆さんを自由もなく、不平等な状態にしています。金正日は自由な選挙に立候補すれば北朝鮮の一般市民に選ばれる事はありえません。北朝鮮は地上の楽園ではなく、地上の地獄です。

私はあなたの国で報道の自由と民主主義の価値を確信しました。

私は友好メダルを授与された時、皆さんに微笑んで欲しかったし、アメリカ人ジャーナリスト達を自由にあちこち案内出来るようになった時皆さんに喜んでもらいたかったのです。しかし、あまりに純粹過ぎた私はこれらを友情と確信してしまい、他国のジャーナリストたちを案内して歩く事を合法的な権利として、北朝鮮で起こっている事を教えました。報道の自由はすべての国にあると信じていたからです。

ニューヨークで、外国人ジャーナリスト達を案内する事を禁じられた事はありませんで

したし、地下鉄にいるホームレスを取材する事も出来ました。これは、地球上に存在する全ての国々に有る合法的な権利なのです。でも、あなたたちの国にこの報道の自由は存在しません。

私はその様な北朝鮮政府と私が持っていた理想に失望しました。私は両親や友人達が社会主義者と呼んだほど、若い学生の頃の私は革新的だったのです。

私は平等と自由を確信していたのです。しかし、旧東ドイツ出身の私の同僚はさらにひどく失望しました。それは北朝鮮の現状がかつての東ドイツと同じだったからです。

旧東ドイツでは、一部の特権階級が自由を謳歌し、シャンペンやワインを楽しんでいて、一般市民達は、不平等な共産主義に失望していました。北朝鮮の現状は当時の旧東ドイツと同様で、金正日、軍や党の幹部そして金一族だけが自由を謳歌し、シャンペンとワインに囲まれた贅沢三昧を享受しており、一方で平壤郊外に住んでいる一般市民達は飢餓と貧困に苦しんでいるのです。だから私は声を上げていかなければいけないと思い行動を開始したのです。

皆さんはドイツの歴史を御存知だと思いますが、ドイツはヒトラー政権の下、ナチスが多勢のユダヤ人達をガス室に送りましたが、この非人道的な行為に対してドイツ人は何の抗議もしませんでした。この事によってドイツは世界中から非難されました。

この事実によって、悪い習慣がはびこっている状況に対して口を噤んではいけない事は私は学びました。だから、友好メダルやこれまでの活動を犠牲にしても、平壤で受けたもてなしや医師としてのキャリアや学んだ事、宮殿での豪華な食事を犠牲にしても活動をしようと思ったのです。

私は墮落したマフィアの様な国家の医師でいたくないのです。私はこれらの現状に反対する責任が有りますし、ドイツ史に於て罪を背負っているのです。

私は警官でも、政治家でも有りません。普通の医師ですが、何か悪行が横行していたら、それを国際警察や国際法廷に知らせ、ガス室、大量殺人や強制収容所に対して調査依頼をする責任が有ります。金正日はミロシェビッチやピノチェト、更に悪いルーマニアのチャウシェスクの様に法の裁きを受けるべきです。

北朝鮮の特権階級の皆さんは金正日に処罰される事を恐れています。マフィアのボスである金正日を処罰するのはあなた方、一般の北朝鮮市民なのです。国民の権利として、金正日に処罰を与えるのです。金正日はそのことを承知してるから皆さんの事を恐れ、特権を利用して、強制収容所や大量殺人を行って皆さんを苦しめているのです。

皆さんに対する人権蹂躪が日常茶飯事に行われている事実は、母国ドイツ、米国、日本

そして韓国の国民に既に知られているのです。北朝鮮に対して国際社会やジャーナリスト達は北朝鮮に於ける人権蹂躪に対して声を上げ、解明し、言及し続けています。

この事について皆さんは是非知っておかなければなりません。

旧東ドイツの市民達は声を上げ、ベルリンの壁を崩壊させたのです。そして東西ドイツは再び一つの国家に戻ったのです。同じ事が皆さんにも起こるかも知れませんよ。皆さんは金正日より遥かに優れていて、強いのです。北朝鮮の一般市民は自由を得るのに相応しく、国際社会において真の友人であり、この事実を知らせる事が出来るのです。

どうもありがとうございました。

[調査会 NEWS 408(18.9.11)]

お詫びと訂正

公開の特定失踪者水嶋弥寿志さん(平成15年失踪)について、これまでポスター及びホームページなどで、「嶋」の字が「島」になっていました。お詫びして訂正します。

「しおかぜ」ゲスト出演

9月13日(水)22:00からの第2放送(朝鮮語)で、次のゲストの北朝鮮向けメッセージが放送されます。

金承哲・北韓研究所研究員

宋允復・北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会事務局次長

ノルベルト・フォラツェン医師(英語放送の一部を朝鮮語に翻訳したもの)

9月18日(月)22:00からの第2放送(日本語)で、次のゲストの北朝鮮向けメッセージが放送されます。

三浦小太郎・北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会事務局長

宋允復・同事務局次長(朝鮮語)

加藤博・北朝鮮難民救援基金事務局長

増元照明・北朝鮮による拉致被害者家族連絡会事務局長

ノルベルト・フォラツェン医師(英語放送のもの日本語訳)

戦略情報研究所講演会のお知らせ

戦略情報研究所では下記の通り講演会を開催します。北朝鮮人権法でも脱北者保護が謳われていますが、日本国内の一部には「脱北者を保護すれば武装難民が入ってくるのではないか」、あるいは、「そもそも難民を助ける必要があるのか」といった意見も見られます。

そういう意見があることを前提として、しかし、なぜ私たちが難民の受け入れをしなければならないのか。また、具体的にはどこまでの範囲で、どうやってやるべきなのか、その第一線で活躍している三浦さんにお話しをいただきます。奮ってご参加下さい。

日時 9月29日(金)18:30~20:30

会場: UIゼンセン会館2階会議室(千代田区九段南4-8-16 tel03-3288-3549)

市ヶ谷駅下車3分 日本棋院斜向い(地図は下記をご覧ください。)

<http://www.uizensen.or.jp/doc/uizensen/access.html>

講師: 三浦小太郎(北朝鮮帰国者の命と人権を守る会事務局長)

テーマ 「なぜ脱北者保護が必要か」

参加費 2000円(戦略情報研究所会員の方はお送りした講演会参加券がご利用になります。参加券がない場合は一般参加費を頂戴します。)

予約等はありません。直接会場においで下さい。

[調査会 NEWS 409(18.9.14)

安達俊之さん目撃情報に関して

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

本日発売の「フライデー」に掲載されている「『特定失踪者安達俊之さんを見た』証言者は地村保志さんだった」という記事について、いくつか問い合わせを受けていますので、こちらの対応等について、お知らせしておきます。

記事の通り、本件は9月5日の調査会定例記者会見の折、目撃者名を伏せて発表した安達さん目撃情報です。確かに、地村保志さん自身が、この情報を否定していますので、調査会の扱い（マッピングリスト1の記載内容）については今後も同じく匿名扱いで掲載を続けます。掲載を続けるということは、あえて言うならば、ご本人の肯定否定にかかわらず、この情報が一定の重要性を持っていると認識していることも意味します。

マッピングリストの目的の一つはこのように発表することで、さらに情報を収集していくことにありますが、安達さんのケースはまさにこれをきっかけとして地元石川でも新たな情報等が寄せられています。今後さらに多方面からの情報収集を行っていく予定です。関係各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。

[調査会 NEWS 410(18.9.15)

愛媛県もホームページに特定失踪者情報を掲載。

すでに静岡県と埼玉県のホームページに県関係の特定失踪者に関する情報が掲載されていますが、本日から愛媛県もゼロ番台リストの二宮喜一さん、山下綾子さん、大政由美さんの三人の情報をホームページに掲載し、情報提供を求めています。県庁での担当部局は長寿介護課ですが、これによって県内での一層の情報収集と世論喚起がなされることが期待されています。

アドレスは以下の通りです。

<http://www.pref.ehime.jp/h20400/tokuteisissousya/tokuteisissousya.htm>

[調査会 NEWS 411(18.9.19)

次回記者会見

次回定例記者会見は次の通り行います。

10月4日(水) 14:00 ~

場所 特定失踪者問題調査会事務所(3F)

内容 マッピングリストの発表

失踪者写真展についての説明

人権週間の対応についての説明

署名の提出について

しおかぜについて

その他

備考 写真展に関しては写真の一部を当日記者会見場に展示します。正式な展示はいまのところ松山市における救う会愛媛の写真展(10月21日~26日)への参加が最初となる予定です。

[調査会 NEWS 412(18.9.20)

UIゼンセン同盟大会での高木会長あいさつから

以下は去る9月13日、松山市で開かれたUIゼンセン同盟第5回定期大会における高木剛会長（連合会長）あいさつのうち、拉致問題に触れた部分です。労働組合の大会なので外部にニュースが出ることもあまりありませんので、ご参考までお知らせします。

UIゼンセン同盟は民間最大（組織人員95万人）の産業別労働組合で、拉致問題にも熱心に取り組んでいます。この日の大会では来賓の鳩山由紀夫・民主党幹事長も加戸守行・愛媛県知事も拉致問題に言及し、また、この大会には中矢民三郎・救う会愛媛会長、特定失踪者大政由美さんのお母さんである大政悦子さん（会長あいさつでも言及）、調査会代表の荒木も来賓として参加しました。高木会長はUIゼンセン同盟の会長をこの大会で退き顧問に就任、連合会長に専念します。

（高木会長挨拶）

昨年の新潟で開催した大会に横田滋、早紀江ご夫妻に来ていただき北朝鮮による拉致問題について話を伺い、組合員の皆さんから寄せられた浄財を拉致問題の解決のために使ってもらおうべく贈呈させていただきました。

この拉致の問題は、アメリカなど国際的な理解は進んでいますが、北朝鮮の不誠実極まりない対応ぶりには全く変化のない状況が続いています。

本年7月にロシアでG8のサミットが開催され、それに先立ちサミット参加8カ国の労働組合代表と国際自由労連、OECD労働組合諮問会議の代表がレーバーサミットということで議長国ロシアのプーチン大統領と協議の場をもち、G8サミットの議論について、労働組合の意見の反映を求めました。私も日本の労働組合代表としてこのレーバーサミットに参加してきましたが、その場でプーチン大統領にG8のサミットの場で北朝鮮による拉致の問題を是非協議事項としてとりあげてほしい、と要請したところ、プーチン大統領はG8で必ず拉致問題を議題にしてとりあげられることを約束してくれました。その後のG8サミット時の議長声明で拉致問題がとりあげられていたのは皆さんご承知の通りです。なお、本年7月の連合と政府との政労協議の際に連合として初めて北朝鮮問題についての政府の一層の努力、対策の強化を求める要請も行っています。

この拉致問題は、北朝鮮の不誠実としか言い様のない対応で進展のないまま徒らに月日を重ねています、東レ労組の元組合員であった方の娘さんも拉致されたと目されており、UIゼンセン同盟の問題でもあります。皆さん、北朝鮮による拉致問題が完全に解決されるまで、どうぞよろしくご理解、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

ノドン、テポドンを発射し、核兵器の開発に猛進する北朝鮮、6カ国協議への復帰を拒み続ける北朝鮮に対しては、国際的な圧力をかけていくしか方法がないと思います、日本政府の的確な対応を強く望んでおきたいと思います。

[調査会 NEWS 413(18.9.26)

大政由美さん、中村三奈子さんの件で外務省が韓国に調査依頼

共同通信の報道によると日韓国両政府は 25 日、出入国管理に関する局長協議を外務省で行い、谷崎泰明外務省領事局長は韓国の金奉ヒョン(キム・ボンヒョン)外交通商省在外国民領事局長に、韓国で行方不明となった特定失踪者大政由美さんと中村三奈子さんについて、継続的な捜査を依頼しました。韓国側は「引き続き努力する」と強調したとのことです。

お二人については去る 5 日の記者会見でマッピングリスト 2 (朝鮮半島での失踪者)として発表しており、それが多少は寄与したのかも知れません。いずれにしても、外務省の対応を多としく思います。これがきっかけとなり何らかの情報がでてくれるといいのですが。

戦略情報研究所講演会のお知らせ

戦略情報研究所では下記の通り講演会を開催します。北朝鮮人権法でも脱北者保護が謳われていますが、日本国内の一部には「脱北者を保護すれば武装難民が入ってくるのではないか」、あるいは、「そもそも難民を助ける必要があるのか」といった意見も見られます。

そういう意見があることを前提として、しかし、なぜ私たちが難民の受け入れをしなければならないのか。また、具体的にはどこまでの範囲で、どうやってやるべきなのか、その第一線で活躍している三浦さんにお話しをいただきます。奮ってご参加下さい。

日時 9月29日(金) 18:30 ~ 20:30

会場 UIゼンセン会館 2階会議室(千代田区九段南 4-8-16 tel03-3288-3549)

市ヶ谷駅下車 3分 日本棋院斜向い(地図は下記をご覧ください。)

<http://www.uizensen.or.jp/doc/uizensen/access.html>

講師 三浦小太郎(北朝鮮帰国者の命と人権を守る会事務局長)

テーマ 「なぜ脱北者保護が必要か」

参加費 2000 円(戦略情報研究所会員の方はお送りした講演会参加券がご利用になります。参加券がない場合は一般参加費を頂戴します。)

予約等はありません。直接会場においで下さい。

[調査会 NEWS 414(18.9.27)

石川千佳子さん殺人事件について

昨日来大きく報道されていますが、昭和 53 年に勤務先の小学校で殺害され、犯人が自宅床下に遺体を息していた石川千佳子さんは、一時期特定失踪者リストにも載っており、私たちも拉致の可能性について調査していた方です。

拉致ではなかったわけですが、調査にかかわった者としてはその真相を聞いてなんともやりきれない思いでした。もちろん、今回の東京地裁の判決は私たちにとって納得できるものではありません。以下、原告代理人である川人博弁護士（法律家の会幹事・調査会常務理事）と山下敏雅弁護士のコメントをお知らせします。

足立区小学校女性教諭殺人事件・損害賠償請求訴訟について
一審判決（東京地裁）に対するコメント

2006 年 9 月 26 日

原告ら代理人 弁護士 川人 博
同 山下敏雅

本日の判決は、一部請求認容の形となっているが、遺体遺棄のみ損害賠償請求を認めても、肝心の殺人行為について請求を棄却したのでは、被害者遺族として、到底納得できない。

形式的な除斥帰還の適用によって、殺人に関する損害賠償請求権を否定したのは、被害者遺族の要求を理解しないものであり、不当判決と言わざるを得ない。また、このような判決が繰り返されれば、凶悪犯罪を誘発する危険性がある。

原告側は、納得できないので、速やかに控訴する。